

敬語法のイロハ

レベル1 絶対的な敬意Ⅱ平安時代

中古Ⅱ平安時代では、身分はとても大事であった。したがって、書き言葉では、敬意というものは、気持ちではなく、身分によって決まっていた。

法則 偉い人が偉い 偉い人が尊敬される。

敬意がない

偉くない人・女房や下衆

言ふ 思ふ

敬意がある

偉い人・殿上人・五位以上・女御・更衣

仰す・のたまふ・（）給ふ
思す

敬意が二つある

すごく偉い人・帝・宮（中宮・東宮）

仰せらる・のたまはす
（）せ給ふ
思しめす

レベル2 偉い人をどう尊敬するか

敬語が使われるということは、そこに偉い人が存在している、逆に言えば、敬語がないということとは、そこに偉い人が存在しない、ということになる。

では、次のようにまとめてみる。

言ふ・敬語なし

|| 偉い人がいない

|| 主体も客体も偉くない

仰す・給ふ

|| 偉い人がいる！

|| 主体が偉い人・敬意対象者

申す・奉る

|| 偉い人がいる！

|| 客体（聞く人）が偉い人・敬意対象者

とすると、主体も客体も偉い人の場合を考える必要がありそうだ。

主体も客体も偉い

- ① 主体を敬うために、給ふ をつける
- ② 客体を敬うために、申し をつける

つまり、謙讓語＋尊敬語という形になる。

中納言、参り給ひて 中納言を敬うために「給ふ」、偉い人のところに来たので「参る」。注意 敬語は絶対的な敬意なので、二人の偉い人の身分差は関係ない。たとえば、帝も「参る」「申す」ことになる。

偉くない人が偉くない人に ↓ 言ふ

偉い人が偉くない人に ↓ 仰す・言ひ給ふ

帝が偉くない人に ↓ 仰せらる・言はせ給ふ

偉くない人が偉い人に ↓ 申す・奉る

偉くない人が帝に ↓ 申す・奉る つまり、謙讓には差がない！

偉い人が偉い人に ↓ 申し給ふ

帝が偉い人に ↓ 申させ給ふ

偉い人が帝に ↓ 申し給ふ

謙讓には差がないので、「帝に」かどうかは区別できない。

レベル3 誰からの敬意か

敬意対象者、尊敬されている人はもちろん偉い人である。では、誰が敬意をはらっているのか？

地の文 ↓ 書いた人

会話文 ↓ 話している人

である。つまり、地の文では、全て、作者からの敬意となる。

レベル4 敬語の訳を考える。

敬語の訳は、意味の混乱を避けるためにも、一度、敬語をとつてもともの意味を考え、改めて敬語をつけるとよい。

① 敬語をとつたもとの訳を考える。

② 敬語をつける

尊敬語の訳：おくになる　くなさる　くられる
謙讓語の訳：おくする　く申し上げる

レベル5 敬語の訳を覚える

補助動詞でないものは、敬語は単語として考える。文法書で意味を覚えよう！

敬語は単語！！ 説明は省略

レベル6 丁寧語

丁寧語は 侍り・候ふ である。 ※謙讓語の侍り・候ふもあるので注意
訳は「です・ます・ございます」となる。

丁寧語は

書き手から読み手への敬意
話し手から聞き手への敬意

のどちらかである。しかし、作者が読者に対して敬語を使うことは少ない。したがって、「侍り・候ふ」のあるところは、会話文という予測が成り立つ。

レベル7 会話文中の敬意

会話文中は、身分という絶対的な敬意でなく、気持ち、場の雰囲気にも左右される。したがって、身分における敬意、レベル1/2が無視される。

- ① 会話文中では、ただの人にも、尊敬語や二重尊敬が使われる。
- ② 会話文中では、偉い人に対しても、敬語を使わないこともある。
- ※以上①②は会話文が気持ちで動くからである。
- ③ 会話文中には謙讓語にもかかわらず、丁寧語のような働きをするものもある。
- 例・(先生に向かって)「父が申しますには…」謙讓語だとするなら、父が言ったのはわたしであるので、私に対する敬意になるが、実際は先生に向けられている。
- ④ 下二「給ふる」が使われる。

補助動詞「給ふ」は四段では、尊敬語、下二段では謙讓語になる。しかし、実際は③と同じような働きをする。「給ふ」という終止形で使われることはない。「給ふる」と

覚えておくとよい。

レベル8 敬意のずれ・係り所

今回は省略。まだ授業で扱っていません。

レベル9 敬語と受け身の組み合わせ

1 御覧ぜらる

2 見え給ふ

※「見え」は「見ゆ」||「見られる」である。こうした動詞を受け身動詞という。

それぞれどう違うのか。

1は 「御覧ず」というように「見る」主体が偉いのである。つまり、偉い人が、そうでない人を見ている。

2は 「見られ」「給ふ」と、「見られている」「主語が偉いので「給ふ」がつく。つまり、偉くない人が偉い人を見ているのである。

それぞれ、受身に訳すわけだが、

2は 見られる+なさる 見られなさっている ときれいに訳出できるが、

1は 御覧になる+られる 御覧になられている と間違った敬語のような訳になる。

1は 主体が偉い人 御覧になる 主語は受身 くられる の両方を持つ訳を考える。

そこで、「御覧になっていただく」という訳を当てる。